

<b>12050 通訳ガイド演習</b> Interpreter-Guide Workshop		2 年次～ 集中 2 単位	
担当者	森住 史	履修可能学科	E Pe Pc C W F
		関 連 資 格	
サブタイトル	通訳訓練法と通訳の実践を体験する		
授業内容 ・ ねらい	目的：通訳者がどのように英語と日本語の言語運用能力を向上させ、実際に通訳をするのかを、身をもって体験する。  方法：通訳の基本的な訓練方法（シャドーイングやパラフレージングなど）を通して、特に苦手な方の言語（英語）の運用能力を強化すると共に、簡単な通訳演習から資料を用いての通訳演習までを体験する。		
授業計画	第一回：通訳者とは、通訳という行為とは 第二回：通訳の基本訓練（シャドーイングとパラフレージング）と自己紹介の通訳 第三回：通訳の基本訓練（リテンション・リプロダクション）と新聞記事を使つての語彙強化 第四回：通訳の基礎訓練（パラフレージングとリテンション・リプロダクション）と時事英語 第五回：通訳の基礎訓練（ディクテーション）とニュースレポートの通訳1 第六回：通訳の基礎訓練（要約）と旅行での会話の通訳 第七回：通訳の基礎訓練（シャドーイング）と時事英語 第八回：ノートの取り方、ニュースレポートの通訳2  第九回：ノートの取り方、ビジネス英語と職場での通訳1 第十回：ビジネス英語と職場での通訳2 第十一回：ノートの取り方、スピーチの通訳 第十二回：プレゼンの通訳 第十三回：通訳の基礎訓練（シャドーイング、ディクテーション、パラフレージング、リテンション・リプロダクション） 第十四回：会話の通訳、スピーチ・プレゼンの通訳 第十五回：まとめ		
教科書 参考書	特になし。配布物が適宜渡される。 辞書は各自かならず持参のこと。		
評価方法	宿題（予習、復習）：40% 授業中のパフォーマンス：40% 最終試験：20%		
事前準備学習 履修条件等	ベアワークが多いので、それを嫌わないこと。 クラス全員に聞こえる声で英語・日本語で話せること。 予習・復習を欠かさずに授業に臨むこと。		